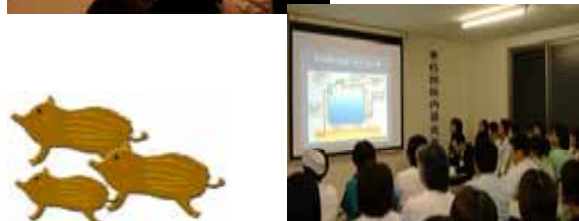
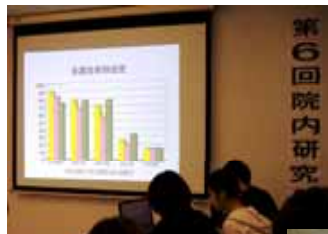


第6回 院内研究発表会がおこなわれました。



11月30日(木) 第6回目の「院内研究発表会」がおこなわれました。看護部4題、診療部5題、事務部2題、日頃の研究成果を発表し合いました。

スタッフそれぞれが専門分野をこえて、他部署の発表を聞く事で新しい知識を吸収することができ、大変意義深い一日となりました。



薬剤科のご案内



薬剤科とは、みなさまが日頃利用されている、薬局やドラッグストアとは少し異なります。当院の薬剤科では、入院されている患者様の薬や注射・点滴等の準備をしたり、病院内の薬剤の管理を行ったり、入院患者様への薬の説明等を行ったりしています。さらに、少しかわった業務としては、輸血の管理等も行っていきます。

また、外来の患者様には、医師がお薬を処方した際に、出来る処方箋をチェックして、お渡しをさせていただきます。

その処方箋を調剤薬局(処方箋を受け付けてくれる薬局)にお持ちになっていただくと、お薬がいただけます。調剤薬局ならどちらの薬局でもかまいません。

～お知らせ～

2006年4月から調剤薬局でお薬をいただく場合、医師の許可があれば、TV等でもCMをしている、成分が同じで値段が安いジェネリック医薬品(後発医薬品)というもので、いただくことも可能になりました。

(特別な場合は除く)

当院でも患者様がほとんどのお薬でジェネリック医薬品を選ぶことが出来るようになっていきますので、是非ご利用ください。



詳しくは薬剤科までお問い合わせをお願いいたします。

086-272-4088

担当/薬剤科長 池本



田中助手(左) 笠原薬剤師(中央)
池本薬剤師(右)



さいわい

岡山第一病院広報誌
第12号
平成19年1月15日
ホームページアドレス
<http://okayama-daiichi.jp/>

開院40周年を迎えて

理事長 亀山 英之



新年、明けましておめでとうございます。本年は昭和42年に第一外科・眼科医院として開院以来、40周年の節目の年に当たります。これもひとえに地域の方々、長年に渡って支えられてきた証であり、心から感謝申し上げる次第であります。

さて、昨年末2006年の世相を表す「今年の漢字」に「命」が選ばれましたが、いじめによる自殺や飲酒運転事故など痛ましい事件が相次ぎ命の大切さや尊さを考えさせられる事件が多かったように思います。そこで新しい年を迎え、この「命」ということを、私たちの職業である「医療従事者」として考えてみたいと思います。私たちは困った方の「命」を預かる職業の一員として、どのような形でいい医療を提供できるのか、そしてその体制づくりをどうしたらいいのかを常に考え続ける必要があるのではないかと思います。今年は亥年、「猪突猛進」だけでなく、日々足跡を振り返りながら未来へ向かって進んでいく注意深さで職員一同「安全で質の高い医療」の提供に努力いたします。本年も、元気で健やかな年になりますようお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

岡山第一病院院長 諸國眞太郎



あけましておめでとうございます。

今年は、亥年です。「亥」という漢字は「核」と同義で「何事かを孕んでいる」「いろいろなエネルギー・問題を孕んでいる」ことを意味しています。十二支の最後の年ということは言い換えれば、新しい「子」年を迎えるための十分な準備をする年です。

昭和42年に「第一外科・眼科」としてスタートを切って今年で40年になります。この間、救急医療、老人医療、障害者医療など地域に根差した医療を軸に診療、介護保険サービスを行ってきました。しかし、皆様もご存知のように国は「財政危機」を理由に今まで日本の医療を支えてきた民間中小病院の病床を介護病床や有料老人ホームに転換させようとする方針を打ち出しています。病院の収入は国が決めた診療報酬によって大きな影響を受けています。今回の診療報酬の改定で国が本気で病床削減を行おうとしていることがはっきりとわかりました。その結果、病院として生き残るためには多くの人材を確保しなくてはなりません。看護師の確保、医師の確保はますます困難な状況です。実際に経営を維持することが難しくなっている病院も出てきています。このように非常に厳しい状況下で今後も地域の皆様への医療サービスを提供し続けるために複雑に流れる潮流の中で潮目を見つけ、流れに負けない病院にならなくてはなりません。「生き残る」病院として当院を特徴付ける枝を伸ばす年にしなくてはなりません。今年の重点項目は以下のとおりです。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1. 日帰り手術センター
・下肢静脈瘤治療の充実拡張(新規クリニック開設)
・ソケイヘルニアの日帰り手術の導入 | 4. 在宅医療への取り組み |
| 2. 血管病、アンチエイジングへの取り組み
・バスキュララボ、サプリメントドック、美容皮膚科 | 5. リハビリテーションの充実 |
| 3. 糖尿病等の予防に着目した健診及び保健指導の実施
・運動療法への取り組み | 6. 社会貢献
・薬剤治験事業
・中国人による通訳サービス |

平成8年1月に着任して12年目、十二支で言えば最後の年「亥」に当たります。思い切った舵取りをして新しい年に繋げて行きたいと決意しています。

皆様の笑顔のために…。



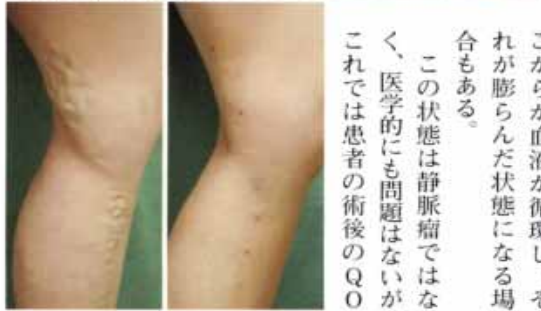
理念
患者様の声に耳を傾け、こころ通じ合う医療
皆様の笑顔のために
基本方針
□ 地域の皆様の視点に立った安全で質の高い効率的なサービスの提供
□ 医療・看護・福祉および健康増進のトータルヘルスケアサービスの提供

医療法人社団操仁会
岡山第一病院
岡山市高屋343
電話: 086-272-4088



下肢静脈瘤日帰りセンターが「サンデー毎日」に掲載されました！！

シリーズ企画 医療新時代
先端医療を担う日本の医師



ストリッピング手術は、太ももの付け根などをわずかに切開し、壊れた弁のある表在静脈を引き抜く方法である。表在静脈が循環させている血液はもとも1割程度で、深部静脈だけでも心臓に血液を戻すことができるので、表在静脈を取り除くことに問題はない。再発率は低く、現在最も確実な治療といわれている。

通常は1週間程度の入院が必要だが、「当院ではストリッピング手術を日帰り入院で行っています。局所麻酔と静脈麻酔により、患者

さんは眠った状態で痛みを感じることなく手術が終わり、翌日には歩行が可能な状態になります」と諸院長。重症の静脈瘤に対しては安定した治療成績を示す、根治的な治療法である。

「治療時間は約30分と短く、通常の検査に近い感覚で受けられる外来治療としてレーザー治療を行っています。今はまだ適応できる症状が限られていますが、いずれは静脈瘤治療の主流になると考えられます」

「現在は下肢静脈瘤という専門的な医療に取り組んでいますが、病気だけでなく、ひとりの人間を診るといって治療方針は変わります。患者本位の医療は専門的な知識と技術、そして医師の努力によって成り立っているのです」

血管が浮き出る
下肢静脈瘤の症状

下肢静脈瘤は、足の筋肉と皮膚の間にある表在静脈がうっ血し、瘤のように膨らむ病気である。命に別状はないが、浮き出た静脈が見た目に悪く、足がむくむ、痛むといった症状に始まり、歩行時や就寝中にこむら返りを起こすようになる。重症化すると静脈炎や皮膚炎から色素沈着を起し、足に潰瘍ができる場合もある。

「下肢静脈瘤は静脈の高血圧であり、多くは静脈の弁不全によって発症します」と諸院長。動脈は心臓から出たきれいな血液を全身に送っているが、全身を巡って汚れた血液を心臓へと送り返しているのが静脈である。

「皮膚の表面の血液はすべて筋肉の中にある太い深部静脈に集められますが、集められた血液は足の筋肉のポンプ作用で心臓に送り返されます。しかし、2本足で立つ人間の都合、重力の關係で血液は下に流れようとして、これを防ぐために足の静脈の中には逆流防止弁があり、心臓の方向にしか血液が流れない巧妙な仕組みになっています。静脈瘤は何かの原因で弁が壊れ、そこから逆流した血液が足にたまり、血管が拡張してしまふ病気です」

「生活の質」は満たせない。そこで諸院長は、薬剤を注入する硬化療法を併用するなど、再度治療に力を尽くす。

下肢静脈瘤の日帰り手術

岡山第一病院は2005年4月に「下肢静脈瘤日帰りセンター」を開設した。今年3月までのわずか1年間で、ストリッピング手術147例、血管内レーザー治療60例の症例数を記録した。執刀医は諸國眞太郎院長。日帰りセンターで行われている下肢静脈瘤の最新治療を聞いた。

シリーズ企画
医療新時代
先端医療を担う日本の医師

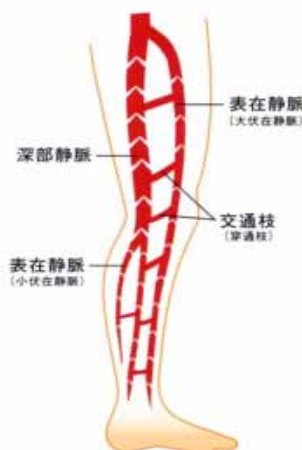


ストリッピング手術と血管内レーザー治療で高い治療成績を挙げる
下肢静脈瘤の最新治療

医療法人社団操仁会
岡山第一病院 院長
諸國眞太郎 (しよこく・しんたろう)

プロフィール
1955年東京都生まれ。開成高校、岡山大学医学部卒。外科の基本は縫合と切除を繰り返す血管の手術にあると考え、血管外科を専門に選ぶ。倉敷市立児島市民病院外科、社会保険栗林病院外科、神戸市立西市民病院外科などを経て、94年に岡山大学医学部第二外科講師に就任。96年に岡山第一病院副院長に就任し、2000年から現職。医学博士、日本医師会認定健康スポーツ医、日本医師会認定産業医、日本体育協会認定スポーツドクターなど。

【監修】医学ジャーナリスト・松井宏夫



DATA
医療法人社団操仁会
岡山第一病院
〒703-8233 岡山市高屋343
TEL:086-272-4088 FAX:086-272-7953
URL: http://www.okayama-daiichi.jp/
下肢静脈瘤日帰りセンター(予約制)
【診療時間(平日のみ)】
月・木 15:30~18:00
水 11:00~12:30
土 10:00~13:00(第1・第3土曜のみ)